

SDGs と新型コロナウイルス感染症対策：  
誰一人取り残すことのない世界の実現に向けて

SDGs 担当副総長  
伊東早苗

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、世界中の多くの人々が生命の危険にさらされると同時に、経済的困窮と社会的な孤立に追い込まれています。また、これまでは先進国における窮状に人々の目が奪われてきましたが、今や感染は開発途上国や紛争地域を含む世界中に広がっていることもわかってきました。とりわけ懸念されるのは、先進国、開発途上国を問わず、社会の底辺にある、もっとも脆弱な立場に置かれた人々が、生命と生活の未曾有の危機にさらされているということです。多くの政府が感染防止対策として、一時的に国内外の物理的境界を強化し、社会的距離戦略(Social Distancing)を実施する中、貧困や紛争や迫害等によってもともと困窮していた人々の生活は、これまで以上に悪化しています。

SDGs は「誰一人取り残さない」世界の実現を謳っており、新型コロナウイルスの世界的蔓延は、ゴール 1 (貧困)、ゴール 3 (健康)、ゴール 4 (教育)、ゴール 8 (持続的成長と雇用)、ゴール 10 (格差)、ゴール 11 (居住)、ゴール 16 (ガバナンス)、ゴール 17 (パートナーシップ) に関わる重大な危機です。名古屋大学は、新型コロナウイルスの克服に向けた研究や教育上の取組みを強化するとともに、新型コロナウイルスに対応するすべての施策が SDGs の理念に基づいて効果的に実施され、社会的な分断や差別を生むことのないよう、国内外に向けてよびかけてまいります。